

『子ども支援の^{いま}現在を学ぶ』ワークシート

本書は、序章にも述べられている通り、子どもを中心とした対人援助・教育の専門職をめざす学生が、まずは、幅広く子どもを取り巻く教育・福祉の現状を知り、子どもの支援について考えを深められるように企画・編集しました。

本書を活用する際に、学生、または教科書として使用する教員の皆さんが、より具体的に各章のコンセプトを理解し、学習課題をもち、事後の振り返りができるようにワークシートを作成しました。このワークシートをご活用いただき、教授される授業として終えるのではなく、自らが学習の主体となって参加し、学習者同士がともに考えあう学習展開を進めてみましょう。

ワークシートの構成

■ コンセプト

読み進める上での焦点。読み解いていくための基盤となる目標。

■ 学習課題

学習者が取り組める課題として、事前学習や授業内でのワークショップ、ロールプレイ、ディベート、エピソード記述、プログラム作成など、個人または集団によるいずれかの学習を各章ごとに提案。

■ 事後の振り返り

事後学習として、各章の学習目標となっていた課題の振り返りの提案。

第1章 子どもと大人の関わりについて

■ コンセプト

- ・子どもと大人の関わりと応答
- ・子どもと大人の違いの理解
- ・子どものあらゆる事象に対する子どもの問いの理解

■ 学習課題

① 事前学習

「子ども」や「子どものもつ世界」について、以前からあなたがもっているイメージを文章化してみましょう。(800字程度)

② ワークショップ

(1) エピソードの創作

子どもが大人に「どうして?」と問いかける場面について、あなたの子ども時代、あるいは、実習などの体験をもとに事例を800～1200字程度で創作してみましょう。

※エピソードの創作にあたって

- 1) 実習体験を用いる場合は守秘義務に充分留意しましょう。
- 2) エピソードの創作には下記の内容を含めていきましょう。

- タイトル：事例の内容を端的に表現しましょう。
- 対象設定：子どもの年齢や育ちの特性など
- 基本属性：家族構成や既往歴、成育歴など
- エピソード：対象となる場面の説明

(2) ロールプレイによるグループ学習

子どもが大人に「どうして?」と問いかけ、それに大人がどのように答える(応える)のか場面設定してみましょう。

※ロールプレイを行うにあたって

- 1) 「～はどうして?」「どうして…?」との問いを立てましょう。
- 2) 各々の問いに解答(回答)を想定して、台本を用意しましょう。
- 3) 大人、子ども役割を交互に演じ、互いの問いに答えて(応えて)みましょう。

③ 事後の振り返り

「子どもらしさ」をどのように理解しましたか? 授業を振り返りながら、あなたの感じたことや、考えたことをまとめてみましょう。(1200字程度)

第2章 子どもを取り巻くコミュニティの変容

■ コンセプト

- ・基本的な「発達」の理解
- ・「発達」と社会環境の相互作用の理解
- ・現代社会における子どもの変化の理解

■ 学習課題

① 事前学習

青年期のアイデンティティ形成について「自分とか何か」という問いかけも含めて自らの考えをまとめてみましょう。(800字程度)

② ワークショップ

- (1) 現代社会の興味・関心がある事象のなかで、子どもの発達に何らかの影響を及ぼしていると思う事例を紹介してみましょう。

※紹介にあたって

- 1) 新聞記事など資料を用いて事象を明示していきましょう。
- 2) その事象の子どもの発達への影響を自分なりに考察してみましょう。

- (2) 現代社会の特性を自らの生活環境へ引き寄せて、発達課題を自覚的に言語化してみましょう。

※言語化にあたって

- 1) 自らが自覚的に捉えている発達課題を列挙しましょう。
- 2) 学生同士でポジティブディベートしてみましょう。

③ 事後の振り返り

自分のなかのインパルス(衝動的)な感覚が、どのような社会的承認のなかで得られたものかをまとめてみましょう。(1200字程度)

第3章 「母子健康手帳」制度の変遷と日本の親子

■ コンセプト

- ・時代の中で変化する"子育て"の理解
- ・「母子健康手帳」交付の目的と社会的影響の理解
- ・過去を展望することで未来の支援を志向する着眼の理解

■ 学習課題

① 事前学習

「母子健康手帳」の交付について、在住地域の手続きの方法など、具体的に調べたり、リーフレットなどを集めたりしましょう。(800字程度)

② ワークショップ

(1)「母子健康手帳」が子育てのどのような過程と関連しているのか、確認してみましょう。

※確認にあたって

- 1)「母子健康手帳」が取り扱う子どもの成長と発達に関連を確認しましょう。
- 2)「母子健康手帳」に記載されるデータが子どもの育ちにどのように寄与するのか話し合ってみましょう。

(2)オリジナル「母子健康手帳」の提案をしてみましょう。

※提案にあたって

- 1)「こんな手帳があったら…」自分たちの独自の視点から新しい手帳を提案してみましょう。

③ 事後の振り返り

身近な人に子育て経験の試行錯誤について体験談を聞き、自らの育ちと親の子育てについて感じたことや、考えたことをまとめてみましょう。(1200字程度)

第4章 子どもが主体的に生きる保育の営み

■ コンセプト

- ・子どもが主体的に生きる存在であることへの理解
- ・子どもを保育する営みの理解
- ・子どもと大人が互いに主体として学びあうことへの理解

■ 学習課題

① 事前学習

「子どもが主体的に生きること」について、以前からあなたがもっているイメージを文章化してみましょう。(800字程度)

② ワークショップ

(1) エピソードの創作

子どもが主体的に生きる姿やその子どもに関わる大人が、どのようにその主体的な気持ちや行動を促し理解することが重要であるかについて、実習などの自らの体験をもとに事例を800～1200字程度で創作してみましょう。

※エピソードの創作にあたって

- 1) 実習体験を用いる場合は守秘義務に充分留意しましょう。
- 2) エピソードの創作には下記の内容を含めていきましょう。

- タイトル：事例の内容を端的に表現しましょう。
- 対象設定：子どもの年齢や育ちの特性など
- 基本属性：家族構成や既往歴、成育歴など
- エピソード：対象となる場面の説明

(2) グループ学習

グループ内から(1)のエピソードを一つ取り上げ、下記の5つの視点から子どもに関わる大人の感情・行動を分析しましょう。

※5つの視点

子どもの状況に対する「気づき(発見)」「読み取り」「受け止め方」「共感」「応答的関わり」

③ 事後の振り返り

子どもから大人が学ぶことをどのように理解しましたか？ 授業を振り返りながらあなたの感じたことや、考えたことをまとめてみましょう。(1200字程度)

第5章 子どもの「生きる力」を育む自然体験活動

■ コンセプト

- ・自然体験活動が子どもの成長に及ぼす効果の理解
- ・他者と協力することが、子どもの成長に及ぼす影響の発見的理解
- ・子ども時代の活動と大人の持ちうる資質の関連の理解

■ 学習課題

① 事前学習

小・中・高校までの体験活動は、自分の中の「生きる力」とどのように関連しているのか、自然体験活動と関連づけて述べてみましょう。(800字程度)

② ワークショップ

(1) プログラムの提案

子どもの年齢や発達をふまえて、自然体験プログラムを提案してみましょう。

※プログラム提案にあたって

- 1) 対象となる子どもの年齢と発達の特徴を留意しましょう。
- 2) プログラムの概要と期待される効果について明確にしましょう。

(2) グループ学習

教育現場において、自然体験活動の機会を設けるにあたっての課題とその解決策について話し合ってみましょう。

※話し合いにあたって

- 1) 具体的な場면을事例にしてみましょう。
- 2) ワークシートなど教材を提案してみましょう。

③ 事後の振り返り

現代社会の子どもたちの体験を多様なものにするために必要なものは何か、大人の果たすべき役割についてまとめてみましょう。(1200字程度)

第 6 章 健康教育を中心とした教科体育

■ コンセプト

- ・子どもの学びの場である学校における健康教育の指導法の理解
- ・WHO が提唱している「ライフスキル」獲得を可能とする体育実技の授業法の理解
- ・子どもの健康的な生き方と保育・教育のあり方の関連の示唆

■ 学習課題

① 事前学習

「健康」とはどのような状態をさすのか、自分なりの理解を言葉にしてみましょう。
(800 字程度)

② ワークショップ

(1) プログラムの提案

テキストに提示される「ライフスキル」のなかから、いくつかを組み合わせ「健康」理解のプログラムを提案してみましょう。

(2) グループ学習

体育指導において「楽しさ」を伝える指導であるために、どのような方法が考えられるのか話し合ってみましょう。

※ 話し合いにあたって

- 1) 何らかの種目を例示して具体的な方法を考えてみましょう。

③ 事後の振り返り

本章で学んだ「ライフスキル」や4つの「学習内容」について、具体的にいくつか例示して感じたことや、考えたことをまとめてみましょう。(1200 字程度)

第7章 治療的関わりとしてのプレイセラピー

■ コンセプト

- ・プレイセラピーの基本的内容の理解
- ・プレイセラピーの理論的背景の理解
- ・セラピストの態度についての考察

■ 学習課題

① 事前学習

子どもへの「治療的関わり」や「セラピー」という言葉からどのようなイメージが思い浮かびますか。あなたが持っているイメージを文章化してみましょう。(800字程度)

② ワークショップ

(1) 自らの考えを深める

子どもにとっての「遊び」とは何を意味するのか、文献やインターネットの出典を明示してまとめてみましょう。そのうえで、なぜプレイセラピーにおいて「遊び」とは、内的な世界を表現するのに最も適した方法といわれるのか考えてみましょう。

(2) グループ学習

子どもを取り巻く多くの支援現場では、なぜプレイセラピーを必要としているのか、社会状況もふまえて話し合ってみましょう。

※話し合いにあたって

- 1) プレイセラピーを必要とする社会状況について新聞記事など資料を用いて明示していきましょう。
- 2) 学生同士でプレイセラピーの具体的支援の有効性について話し合ってみましょう。

③ 事後の振り返り

コラム (p.150) のセラピストの対応を読んで、「治療的配慮」の必要性について自らの考えをまとめてみましょう。(1200字程度)

第 8 章 障害のある子どもの育ちと支援

■ コンセプト

- ・発達障害の理解
- ・障害のある子どもたちの育ちの支援の理解
- ・子どもの認知・自己像・情緒等の基本的理解

■ 学習課題

① 事前学習

「発達障害」といわれる子どもたちの育ちの特性には、どのような特性があるのでしょうか？ 文献・インターネットなど出典を明示してまとめてみましょう。(800 字程度)

② ワークショップ

(1) 子どもの概念形成の過程について理解を深める

子どもが何か一つの事柄について概念形成していく過程を考えてみましょう。

※考えるにあたって

- 1) テキストの例示(p.159, p.160)を参考にしましょう。

(2) グループ学習

障害のある子どもたちの支援者として、子どもたちの"考える力"をどう育て、自己の世界とその表現をどう広げていけばよいのかを言語化してみましょう。

※言語化にあたって

- 1) 自らが自覚的に捉えている障害のある子どもの個々の育ちのとらえ方を列挙していきましょう。
- 2) 学生同士でディベートしてみましょう。

③ 事後の振り返り

障害種別や障害・診断名から育ちにくさを考えるのではなく、認知・自己像・情緒の視点から、子どもたちの育ちにくさを考えることで、どのような気づきを得られたのでしょうか。感じたことや、考えたことをまとめてみましょう。(1200 字程度)

第9章 「あたりまえの暮らし」をめざして

■ コンセプト

- ・障害のある子どもたちの在宅生活についての理解
- ・障害のある子どもたちの学校生活についての理解
- ・教育、医療、福祉面からの障害児・者に必要な支援の理解

■ 学習課題

① 事前学習

障害のある子どもたちの学校教育に係る制度について、調べてまとめてみましょう。

(800字程度)

② ワークショップ

(1) 障害児が住み慣れた地域で暮らすには、どのような支援が必要でしょうか？

※考えるにあたって

- 1) 現在ある障害児福祉制度について、文献や公的福祉機関によるリーフレットをもとに、整理してまとめる。
- 2) 学生同士のディベートのうえ、検討結果を図式化して発表しあう。

(2) インクルーシブ教育のためには、どのような取り組みが必要でしょうか？

※考えるにあたって

- 1) 学校の設備面、教員配置から考える
- 2) これまでの学校生活の経験から、特別支援学校以外では障害児が困るだろう事柄について、学生同士話し合ってみましょう。

③ 事後の振り返り

特別支援教育とインクルーシブ教育双方の利点と課題点をまとめてみましょう。

(1200字程度)

第 10 章 ライフステージと看護

■ コンセプト

- ・学童期の子ども の 発達と生活特性の理解
- ・学童期の子ども の 清潔の保持の必要性と方法の理解
- ・学童期の子ども の 清潔の保持について子ども と家庭への支援の視座の獲得

■ 学習課題

① 事前学習

学童期の子どもたちにとって、「清潔を維持すること」の必要性についてあなたはどのように考えていますか？ 学童期の発達特性の身体的・心理的・社会的側面をふまえてまとめてみましょう。(800 字程度)

② ワークショップ

- (1) ライフステージのなかで、学童期は子どもたちにとって、どのような発達段階なのでしょう か？

※考えるにあたって

- 1) 学童期の発達特性を、身体的、心理的、社会的側面から整理してみる。
- 2) 3つの側面について、具体的に生活場面を例示して理解を深める。

- (2) 子どもたちに理解を得られるように、「清潔の保持」の必要性を説明してみましょう。

※考えるにあたって

- 1) 学童期の発達特性を具体的に関連づけて、「清潔の保持」の必要性と方法を考えてみる。
- 2) 大人と子ども の入浴の場面におけるロールプレイを設定し、子どもとの関わりのなかで子どもに「清潔の保持の必要性」を説明し、入浴の援助を実践してみる。

③ 事後の振り返り

今回の学びを通して、子どもたちの生活にとって「入浴」はどのような意味や意義をもつ生活習慣なのか、自らの考えをまとめてみましょう。(1200 字程度)